

お お が た じ ゅ っ き ゃ く こ う か く る い 高知県の大型十脚甲殻類

【現 状】

日本産のカニ類は横浜国立大学の酒井恒博士（1903-1986）、エビ・カニ・ヤドカリ・シャコ類は九州大学の三宅貞祥博士（1908-1998）により精力的に研究されました。お二人の膨大な研究報告の中に高知県の地名がしばしば登場します。お二人が来高されたのは事実ですが、県内の動物学者が標本の採集に協力したのもまた事実であり、高知県産の大型十脚甲殻類を研究する上でお二人の業績が現在でも基礎となっています。その後1986年に、土佐湾を中心とした調査船による底曳き網調査で得られた176種のエビ・ヤドカリ・カニ類などが発表されました。1997年には室戸市在住の松沢圭資氏により、室戸岬周辺の十脚甲殻類142種が発表されました。これは、県内在住の研究者による県内産十脚甲殻類についての初めてのまとまった研究例で、おもに岩礁性の種と刺し網で得られた種が扱われました。2001年に国立科学博物館の武田正倫博士が、調査・研究船のトロールにより水深50-1,000mで得られた土佐湾の底生性カニ類22科105種を報告しています。汽水・淡水産のエビ・アナジャコ・テッポウエビ・ヤドカリ・カニ類については、98種が高知県レッドデータブック〔動物編〕で2002年に紹介されました。同時に、絶滅危惧種として4種、準絶滅危惧種として4種、情報不足種として11種が指定されました。

現在、浦戸湾、浦ノ内湾および県内各地の河川河口域での調査から、これまで知られていたよりはるかに多い汽水産のカニ類が採集されつつあります。また近年、沿岸で急速に増加しつつある造礁サンゴに依存しているテッポウエビ・エビ・カニ類の調査が進行しています。この中には多くの高知県未記録種が含まれており、種の北限記録を大幅に更新するものと予想されています。大型十脚甲殻類はさまざまなグループを含んでいますが、県内には専門家が少なく、これまでの資料の整理と新たな採集の努力が続けられています。

【変 化】

大型十脚甲殻類については継続的な調査・研究がないため、変化の詳細は不明です。しかしながら、西表島と奄美大島からしか記録のなかった南方系のホンコンイシガニが浦戸湾に多産することが2004年に報告されました。また、同じく南方系で、国内では三重県と和歌山県、奄美大島から八重山諸島に分布しているとされていたミナミベニツケガニが浦戸湾に普通に分布していることが2004年に発表されました。ミナミベニ



写真1. マメコブシガニ

干潟や砂泥地域に生息する甲長2～3cm程度のカニ。高知県レッドデータブックにおいて、絶滅危惧Ⅱ類に指定されているが、近年の調査によりこれまでわかっていたよりも広い範囲で確認され始めている。

ツケガニは香南市の港でも採集されています。これらの南方系の種は2000年ごろから県下で増えつつあると考えられます。干潟に生息するカニでは、高知県絶滅危惧ⅠA類のムツハアリアケガニ、同Ⅱ類のマメコブシガニが県レッドデータブックに示されているより広い範囲に生息していることが明らかになりました。一方、同ⅠB類のクシテガニはこの数年記録されていないため、絶滅した可能性があります。

【人とのかわり】



写真2. 高知市新堀川のシオマネキ
シオマネキはスナガニ科のカニで、伊勢湾以南の本州、四国、九州の太平洋側および朝鮮半島南部に分布します。甲幅は35mmほど。雄は左右どちらかのハサミが大きくなりますが、雌はどちらも小さいままです。写真はまだ若い雄の個体です。



写真3. 黒潮町のリョウマエビ
リョウマエビは土佐湾産の標本を基に、1955年に新種として記載されました。和名は坂本龍馬にちなんでいます。体長はおよそ25cmで、イセエビほど大きくありません。水深20～500mの岩礁域に生息します。伊豆半島から土佐湾、東シナ海、九州-パラオ海嶺、マダガスカル沖から知られている珍種です。

沿岸の小型漁船によりクルマエビ、クマエビ、アカエビ、サケエビなどのエビ類、タイワンガザミ、ジャノメガザミ、ガザミなどのカニ類が漁獲され、流通しています。しかしながら、広大な内湾がないため、漁獲量は多くはありません。浦戸湾は大型のエビ・カニ類の宝庫です。とくに地元で「えがに」と呼ばれているノコギリガザミ類が豊富で、高値で取引されています。また、浦戸湾には体長30cmを超えるウシエビが生息し、数は少ないのですが流通しています。ウシエビは浦戸湾沿岸で「ごうじょう＝強情」と呼ばれています。市場での流通名は「ブラックタイガー」で、天然のウシエビが生息している環境は国内で珍しい存在です。岩礁性の海岸ではイセエビが漁獲されています。四万十川、仁淀川、物部川、奈半利川をはじめとする県内の河川と浦戸湾では県内で「つがに」と呼ばれているモクスガニが普通に見られ、秋の味覚のひとつとして県民に親しまれています。ただし、モクスガニは県の条例で資源が保護されています。

干潟のカニは環境の指標として重要な動物です。とくに高知県絶滅危惧ⅠA類で環境省の絶滅危惧Ⅱ類でもあるシオマネキは、高知県希少野生動物に指定されています。高知市の「はりまや橋」から500mも離れていない新堀川にシオマネキが生息しているのは、浦戸湾がいかにも素晴らしい環境であるかを物語っています。